

## 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果からわかる課題のまとめ

**1** 子どもと家族の状況等

## ◇世帯構成【報告書：7頁、105頁】

- 夫婦と子どもの同居世帯（いわゆる核家族）が圧倒的に高く、親と子どもと祖父母の三世帯同居世帯は少ない。
- ひとり親と子どもの同居世帯は、就学前の子どもの保護者調査では2.6%だが、小学生の保護者調査では4.9%という結果である。
- 前回（平成20年）の調査結果に比べ、親と子どもと祖父母の三世帯同居世帯が低くなっている。

## ◇子育てを主に行っている人【報告書：8頁、106頁】

- 子育てを主に行っているのは、「主に母親」が過半数を占めている。

## ◇子どもをみてくれる親族等の有無【報告書：8頁、106頁】

- 「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60%近くあり、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」も30%以上ある。祖父母等の存在が大きいことがわかる。

**2** 保護者の就労状況

## ◇保護者の就労状況【報告書：9頁・15頁、109頁・115頁】

- 就学前の子どもの母親は「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が、小学生の母親は「パート・アルバイト等」が約半数を占めている、父親は「フルタイム」が90%以上を占めている。

## ◇1日あたりの平均就労時間【報告書：10頁・16頁、110頁・116頁】

- フルタイムは、母親が約8時間、父親が約10時間。
- パート・アルバイト等は、母親が約5時間、父親が8～10時間。
- 前回（平成20年）の調査結果に比べ長時間化の傾向がある。

## ◇帰宅時刻【報告書：11頁・17頁、111頁・117頁】

- フルタイムの場合、母親は「18時台」が多く、父親は「20時以降」が過半数を占めている。
- パート・アルバイト等の母親は「16時より前」が多い。

◇パート・アルバイト等のフルタイムへの転換希望【報告書：12頁、112頁】

- パート・アルバイト等で働いている母親の約3割は、フルタイムでの就労を希望しているが、パート・アルバイト等での就労継続希望が過半数を占めている。

◇仕事をしていない人の就労希望【報告書：13頁・14頁、113頁・114頁】

- 現在、仕事をしていない母親の就労意向は、就学前の子どもの場合は70%以上、小学生の場合は60%以上ある。
- 「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した母親の希望する就労形態は、「パート・アルバイト等」が圧倒的に多い。

### 3 平日の定期的な教育・保育事業

◇定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前の子どもの保護者）【報告書：19頁】

- 定期的な教育・保育事業は、子どもの年齢が高くなるにしたがい高くなり、4歳以上ではほとんどが利用している。

◇平日利用している教育・保育事業の種類（就学前の子どもの保護者）【報告書：21頁】

- 平日利用している教育・保育事業は、年中までは「保育園」、年長は「幼稚園」が多い。

◇定期的な教育・保育事業を利用している理由（就学前の子どもの保護者）【報告書：37頁】

- 「子どもの教育や発達のため」が60%以上で最も高く、次いで「子育て（教育含む）をしている方が現在就労している」が50%台となっている。

◇定期的にご利用したい教育・保育事業（就学前の子どもの保護者）【報告書：40頁】

- 「幼稚園」が54.0%と最も高く、次いで「保育園」が52.7%、「幼稚園の預かり保育」が24.4%、「認定こども園」が23.3%などとなっている。

◇定期的な教育・保育事業を選ぶ際に重視すること（就学前の子どもの保護者）【報告書：42頁】

- 「通いやすい場所にあること」が突出して高くなっているが、「保育者等の人員体制や専門性・人柄」「安全や衛生面が優れていること」「教育・保育の方針や内容」といった事業の質に関する項目も比較的高くなっている。

◇定期的な教育・保育事業に期待する内容（就学前の子どもの保護者）【報告書：43頁】

- 「マナーやルールの教育」が50%以上で最も高く、次いで「自主性を伸ばす教育・保育」と「生活習慣のしつけ」が40%台となっている。

◇定期的な教育・保育事業で、小学校入学までに身に付けてほしいこと（就学前の子どもの保護者）【報告書：44頁】

- 「友だちと仲良く協力し合うこと」が突出して高く、次いで「基本的な生活習慣」、「約束やきまりを守ろうとすること」となっている。

#### 4 地域の子育て支援事業

◇子育て支援センター等の利用状況（就学前の子どもの保護者）【報告書：45頁】

- 定期的な教育・保育事業の未利用者の約55%が子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）および類似した事業（あおぞら出前保育など）を利用している。

◇子育て支援センター等の利用意向（就学前の子どもの保護者）【報告書：47頁】

- 定期的な教育・保育事業の未利用者の利用意向は、「今は利用していないが、今後利用したい」が28.4%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が27.5%ある。

(3) 子育て支援センター等を利用していない主な理由（就学前の子どもの保護者）

【報告書：49頁】

- 「幼稚園・保育園の在園児のため、利用したくてもできない」が40%以上を占めている。

#### 5 休日・長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業

◇土曜・休日等の定期的な教育・保育事業の利用意向（就学前の子どもの保護者）

【報告書：53頁・55頁】

- 「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」を合計した《利用したい》は、土曜日が30%以上、日曜日・祝日が15%以上となっている。

◇幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用意向（就学前の子どもの保護者）【報告書：57頁】

- 「週に数日利用したい」が40%以上で最も高く、「ほぼ毎日利用したい」との合計《利用したい》は約60%。

## 6 子どもが病気の際の対応

◇子どもが休日・夜間に病気になった時の対応【報告書：58頁、137頁】

- 就学前の子どもの場合は「家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子を見た」が、小学生の場合は「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が最も高くなっている。

◇子どもが病気等で平日の定期的な教育・保育事業や小学校を休んだことの有無

【報告書：59頁、138頁】

- 教育・保育事業の利用者は70%弱、小学生の保護者は60%強。

◇子どもが病気等で平日の定期的な教育・保育事業や小学校を休んだときの時の対処法

【報告書：60頁、139頁】

- 「母親が休んだ」が突出して高くなっている。

◇病児・病後児保育の利用意向【報告書：61頁、140頁】

- 病児・病後児保育を利用したいと思ったことが「あった」と回答した教育・保育事業の利用者は27.8%、小学生の保護者は14.1%（「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した人が母数）。

## 7 不定期な教育・保育事業等

◇不定期な教育・保育事業（一時保育等）の利用経験（就学前の子どもの保護者）

【報告書：62頁】

- 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期的に利用している教育・保育事業の利用経験は、「一時保育」が7.5%、「幼稚園の預かり保育」が5.1%、「ファミリーサポートセンター」が1.2%で、「利用していない」が80%以上となっている。

◇不定期な教育・保育事業（一時保育等）の利用意向（就学前の子どもの保護者）

【報告書：64頁・65頁】

- 一時保育など不定期な教育・保育事業の利用意向は38.0%。
- 利用したい理由としては、「冠婚葬祭、学校行事、子どもの親の病気」と「私用、リフレッシュ」が高い。

## 8 小学生の生活状況

### ◇朝食の摂取状況（小学生の保護者）【報告書：107 頁】

- 「毎日食べている」が約95%を占めているが、「食べない日もある」が3.9%、「ほとんど食べない」が1.1%ある。

### ◇就寝時刻（小学生の保護者）【報告書：108 頁】

- 学年別にみると、いずれの学年も「21時～22時」が最も高くなっているが、6年生になると「22時～23時」が30%を超える。

## 9 放課後児童クラブ・放課後子ども教室

### ◇放課後児童クラブの利用状況（小学生の保護者）【報告書：122 頁】

- 放課後児童クラブの利用率は9.7%だが、3年生以下に限ってみると13.5%。4年生以上では4.1%。

### ◇放課後児童クラブの利用日数（小学生の保護者）【報告書：124 頁】

- 「週5日」が56.8%を占めており、1週間あたりの利用日数の平均は4.0日。

### ◇放課後児童クラブの土・日曜日の利用状況（小学生の保護者）【報告書：124 頁】

- 放課後児童クラブを利用している人の17.3%は、土曜日・日曜日にも利用している。

### ◇放課後児童クラブの利用意向（小学生の保護者）【報告書：128 頁】

- 放課後児童クラブを利用していない人の利用意向は9.5%だが、3年生以下に限ってみると13.3%。4年生以上では4.5%。

### ◇放課後児童クラブの土・日曜日の利用意向（小学生の保護者）【報告書：130 頁】

- 放課後児童クラブを利用したい人の28.9%は、土曜日・日曜日にも利用意向がある。

### ◇放課後児童クラブを利用したい理由（小学生の保護者）【報告書：131 頁】

- 「現在仕事をしている」が38.0%、「そのうち仕事をしたいと考えている」が21.5%。

### ◇放課後子ども教室の利用意向（小学生の保護者）【報告書：132 頁】

- 放課後子ども教室の利用意向は48.8%だが、「わからない」も39.1%ある。「利用したくない」は10.8%。

## 10 仕事と子育ての両立

### ◇出産前後の就労状況（就学前の子どもの保護者）【報告書：73頁】

- 出産前後の母親の就労状況をみると、「仕事をやめた」と「出産1年前からすでに働いていなかった」の合計が約70%を占めているが、「継続的に働いていた（転職も含む）」も30%近くある。
- 仕事を続けた理由としては、「仕事を続けることが経済的に必要だったから」と「職場環境や労働条件等が整っており、働き続けやすい環境だったから」が高くなってる。

### ◇仕事と子育ての両立が難しいと感じたことはあるか【報告書：75頁、141頁】

- 70%以上の方が、仕事と子育ての両立が難しいと感じたことが「ある」と回答している。
- 両立が難しいと感じた理由は、「自分の代わりに面倒をみる人がいない」が最も高くなっている。

### ◇育児休業の利用状況【報告書：79頁、144頁】

- 「母親が利用した」は、就学前の子どもの保護者の場合は23.2%だが、小学生の保護者の場合は15.5%。「父親が利用した」は両者ともわずか1.3%。

## 11 相談・情報提供

### ◇子育てに関する悩みや不安の相談相手【報告書：82頁、145頁】

- 「配偶者・パートナー」が80%台で最も高く、次いで「その他の親族（親・きょうだいなど）」が70%台、「隣近所の人、知人・友人」が60%台などとなっている。家族や知人など身近な人以外では、「保育園、幼稚園の保護者の仲間」「学校の保護者の仲間」「保育士、幼稚園の先生」「学校の先生」「職場の同僚」などが高くなっている。

### ◇子育てに関する悩みや不安を解消するために求められる相談窓口【報告書：84頁、147頁】

- 「子どもの年齢（発達段階）によって専門的な相談ができる窓口」が40%以上で最も高く、次いで、就学前の子どもの保護者の場合は「身近な地域にあり、気軽に相談できる窓口」が、小学生の保護者の場合は「子どもの年齢に関わらずどんなことでも相談できる総合的な窓口」と「身近な地域にあり、気軽に相談できる窓口」が30%台となっている。

### ◇子育て情報の入手方法【報告書：85頁、148頁】

- 子育てに関する情報の入手方法としては、「隣近所の人、知人・友人」が70%台で最も高く、次いで「親族（親、きょうだいなど）」が50%台、「保育園、幼稚園」または「学校」が40%台となっている。

◇子育てに関する情報の効果的な提供方法【報告書：87頁、150頁】

- 子育てに関する情報の効果的な提供方法としては、「市の広報を充実させる」が最も高く、次いで「パンフレットや情報誌をスーパーなど身近な場所に置く」「市のホームページを充実させる」「くわな子育てガイドブックを充実させる」「市のホームページを充実させる」なども比較的高くなっている。

## 12 子育てに対して感じていること

◇子育てに対して感じていること【報告書：89頁、152頁】

- 子育てに関する7つの項目のうち
  - ①子どもがいると生活が楽しく豊かになる
  - ②子育てを通じて自分も成長すると思う
  - ③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思うについて「そう思う」が70%を超えており、子どもの存在が自分の人生や生活に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかる。

◇子育てする上での不安や悩み【報告書：91頁、154頁】

- 就学前の子どもの保護者の場合は「子どもの叱り方について不安があること」と「子育てにより身体に疲れを感じること」が高くなっている。
- 小学生の保護者の場合は「子ども同士の友だちづき合い(いじめ等を含む)に関すること」と「子どもの叱り方について不安があること」が高くなっている。

◇何歳まで家庭で育てるのが良いと思うか（就学前の子どもの保護者）【報告書：94頁】

- 子どもの育ちにとって、何歳までは、保育園・幼稚園を利用せず、家庭で育てるのが良いと思うかについては、「2歳」が45.3%と最も高くなっている。

◇子どもを育てる環境として重要だと思うこと【報告書：95頁、156頁】

- 「治安がよく安全に生活できるまち」が60%以上で最も高く、次いで「自由にのびのび遊べる場所」が60%前後、「地域医療の充実」が40%前後、「充実した学校や教育施設」が30%台となっている。

## 13 子育てと地域の関わり

### ◇子育てに関して地域に望むこと【報告書：96頁、157頁】

- 「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」が80%前後で最も高く、次いで「子どもが危険なことや人に迷惑がかかることをしていたら、注意したりしかってくれること」となっている。

### ◇子育てサークルなど自主的な活動への参加状況（就学前の子どもの保護者）【報告書：98頁】

- 「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が46.9%と最も高く、「現在参加している」の13.0%と合わせると、約60%に参加意向があるといえる。

### ◇子育てサークルなど自主的な活動を継続させるために必要な支援（就学前の子どもの保護者）

【報告書：99頁】

- 「活動する場の提供」が54.0%と最も高く、次いで「保育士や保健師など専門的な人材の派遣」「活動に関する情報の提供」「活動に必要な費用の補助」の順となっている。

### ◇地域活動などグループ活動への子どもの参加状況（小学生の保護者）

【報告書：158頁・159頁】

- 「現在参加している」が43.3%と最も高く、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の37.0%と合わせると、80%以上に参加意向があるといえる。
- 子どもが参加している活動もしくは今後参加させたい活動は、「スポーツ活動」が約70%と突出して高くなっている。